

先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 実施状況報告書(平成 24 年度)

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発
研究機関・ 部局・職名	千葉大学・大学院看護学研究科・教授
氏名	森 恵美

1. 当該年度の研究目的

本研究の最終目的は、高年初産婦(35歳以上の初産婦)に特化した産後1ヶ月までの子育て支援ガイドラインの開発である。平成24年度の目的は、産後4ヶ月間における産後の生活活動と身体的心理社会的健康状態に関する縦断研究【研究1】の結果を踏まえ、産後半年間にわたる褥婦の身体的心理社会的健康状態に関するコホート調査研究【研究2】を推進することにより、高年初産婦の産後1か月までの子育て支援ニーズを明確にすることである。

【研究2】の研究目的は、産後半年間における褥婦の身体的心理社会的健康状態の変化について、年齢、経産回数、職業、妊娠中の異常、分娩週数、分娩様式、分娩時の異常、新生児の異常等分娩時の要因と、産後の生活、子育て状況や夫の子育て参加状況、子育て支援状況、仕事の復帰、子どもの成長発達など産後経過に伴う要因による違いをコホート調査により明らかにすることである。

2. 研究の実施状況

【研究2】フィージビリティ調査後、5月より関東と関西の分娩施設13施設で研究参加者募集を行い、平成24年12月末には産後入院中からの参加者でコホートを形成し、産後1か月までの継続調査参加者は約2,500名であった。このうち、高年初産婦が約2割を占めていることを確認した。参加者には「ママたす友の会」の入会、メールマガジンやHPIによる子育て情報の提供、毎回の調査用紙の送付の際に紙面による子育て情報の提供、「国民との科学・技術対話」開催の周知など、継続的協力を随時促進した。統計学的なパワーを確保するため調査依頼を3月まで延長し、3,500名以上の研究参加の同意を得て、データ入力・分析を行った。

【研究1】の産後4か月間の縦断調査によって、高年初産婦にとって子育て支援が看護の立場から特に必要であるのは、産後1か月間であることが明らかになった。そして、日本人高年初産婦の子育て支援ニーズは、初産婦の子育て支援ニーズに加えて、高齢であることに起因する子育て支援ニーズがあることが明確となった。さらに、人生経験が豊かであることで大変な子育てを自分なりの意識変革で乗り越えるなど、高年初産婦の強みがあることも示された。

以上より、産後1か月間における高年初産婦に特徴的な子育て支援ニーズとして、①自分中心の生活からわが子(新生児)中心の生活へ移行するための生活調整方法について情報を得ること、②産後の心身回復、疲労蓄積回避のための対処法や健康管理方法を学習すること、③私とわが子にあった授乳方法、育児方法を身につけること等を明確にした。

様式19 別紙1

3. 研究発表等

雑誌論文 計1件	(掲載済み一査読有り) 計1件 中沢恵美子, 森 恵美, 坂上明子:35 歳以上で初めて出産した女性の産後入院中における母親としての経験, 日本母性看護学会誌, 13 巻, 1号, 17-24, 2013 (掲載済み一査読無し) 計0件 (未掲載) 計0件
会議発表 計7件	専門家向け 計6件 1)中沢恵美子, 森 恵美, 坂上明子:35 歳以上で初めて出産した女性の産後入院中における母親としての経験, 神戸, 2012/06/16, 第 14 回日本母性看護学会学術集会. 2)森恵美, 坂上明子, 岩田裕子, 小澤治美, 森田亜希子, 前川智子, 前原邦江:日本における高年初産婦に対する子育て支援の課題, 千葉, 2012/09/15, 千葉看護学会第 18 回学術集会. 3)森恵美:教育講演 高年初産婦の産後の健康と子育て支援, 福岡, 2012/11/16, 第 53 回日本母性衛生学会学術集会. 4)森恵美, 坂上明子, 土屋雅子:高年初産婦の産後入院中の看護ニーズについて, 東京, 2012/11/30, 第 32 回日本看護科学学会学術集会. 5) Mori E., Sakajo A., Iwata H., Maehara K., Ozawa H., Morita A., Maekawa T., Tsuchiya M.:Change in physical and psychosocial health of Japanese first-time mothers over age 35 in the 4 months after childbirth, Bangkok, 2013/02/21, 16th East Asian Forum of Nursing Scholars. 6) Sakajo A., Mori E., Maehara K., Iwata H., Ozawa H., Morita A., Maekawa T., Tsuchiya M.: Relation of fatigue to depression and maternal role attainment 1 month after childbirth in Japanese first-time mothers over age 35, Bangkok, 2013/02/21, 16th East Asian Forum of Nursing Scholars. 一般向け 計1件 7)森恵美, 坂上明子, 土屋雅子:最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との科学・技術対話 広がる看護職者の仕事 2012「高年初産婦への子育て支援ガイドラインの開発に向けて」, 東京(東京国際フォーラム), 2012/12/01. 独自企画
図書 計0件	
産業財産権 出願・取得状況 計0件	(取得済み) 計0件 (出願中) 計0件
Webページ (URL)	http://www.mamatasu.jp 活動報告で研究成果を報告する他、ママたす友の会(会員専用ページあり)を作り、研究参加者に入会を促し、メールマガジンでお知らせをして子育て情報を配信している。
国民との科学・技術対話の実施状況	森恵美, 坂上明子, 土屋雅子:最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との科学・技術対話 広がる看護職者の仕事 2012「高年初産婦への子育て支援ガイドラインの開発に向けて」, 東京(東京国際フォーラム), 2012/12/01. 独自企画を行った。HP と「ママたす友の会」のメールマガジン、第 32 回日本看護科学学会学術集会において広報を積極的に行った結果、看護師以外の一般参加者 38 名を得ることができ、有意義な意見交換ができた。
新聞・一般雑誌等掲載 計1件	出産専門ジャーナリスト河合蘭氏からの取材を受けた。その結果が、文春新書「卵子老化の真実」(河合蘭著, 文藝春秋, 2013)の 210-211 頁に掲載された。
その他	

4. その他特記事項

実施状況報告書(平成24年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されます

1. 助成金の受領状況(累計) (単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額	既返還額(前 年度迄の累 計)
直接経費	80,000,000	34,989,000	22,909,000	22,102,000	0
間接経費	24,000,000	10,496,700	6,872,700	6,630,600	0
合計	104,000,000	45,485,700	29,781,700	28,732,600	0

2. 当該年度の収支状況 (単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を 除く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度執 行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額	当該年度返還 額
直接経費	13,087,562	22,909,000	0	35,996,562	34,681,267	1,315,295	0
間接経費	0	6,872,700	0	6,872,700	6,872,700	0	0
合計	13,087,562	29,781,700	0	42,869,262	41,553,967	1,315,295	0

3. 当該年度の執行額内訳 (単位:円)

	金額	備考
物品費	2,875,038	文具等消耗品、統計解析ソフトウェア等
旅費	1,078,135	研究成果発表旅費(母性衛生、JANS、EAFONS等)
謝金・人件費等	19,684,731	研究員人件費、研究協力謝金等
その他	11,043,363	質問紙印刷代、質問紙郵送代、謝礼品等
直接経費計	34,681,267	
間接経費計	6,872,700	
合計	41,553,967	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		